

# 石田遺跡発掘調査報告書

1985

滋賀県教育委員会

滋賀県文化財保護協会

# 石田遺跡発掘調査報告書

1985

滋賀県教育委員会

財団 法人 滋賀県文化財保護協会

## 序

県下の住宅開発事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査は、京阪神への通勤圏に入るようになってからベッドタウン化が進み、さらに、各市町村の都市計画事業等によって発掘調査件数が増加しております。

発掘調査で得られたその成果は公開し、広く埋蔵文化財に関する御理解を深めて頂く一助にしたいと、ここに昭和60年度に実施いたしました発掘調査の報告書を刊行するものであります。

最後に発掘調査にあたり、御協力頂きました地元関係者並びに関係諸機関に対し、厚く感謝の意を表すと共に報告書の刊行に御協力頂きました方々に対しても厚くお礼申し上げます。

昭和61年3月

滋賀県教育委員会

教育長 南 光 雄

## 例　　言

1. 本書は昭和60年度県営住宅開発事業に伴う守山市石田遺跡の発掘調査報告書で、昭和60年度に発掘調査し、整理したものである。
2. 本調査は県土木部からの委託（再配当）により、滋賀県教育委員会を調査主体とし、~~但~~滋賀県文化財保護協会を調査機関として実施した。
3. 発掘調査にあたっては、守山市教育委員会、守山市立埋蔵文化財センターの協力を得た。
4. 本書で使用した方位は磁針方位に基づき、高さについては東京湾の平均海面を基準としている。
5. 本事業の事務局は次のとおりである。

### 滋賀県教育委員会

文化財保護課長	市原 浩
課長補佐	中正 輝彦
埋蔵文化財係長	林 博通
" 技師	葛野 泰樹
管理係主任	山本 徳樹

### ~~但~~滋賀県文化財保護協会

理事長	南 光雄
事務局長	江波弥太郎
埋蔵文化財課長	近藤 澄
調査三係長	大橋 信弥
" 三係技師	宮崎 幹也
" 技師	仲川 靖
総務課長	山下 弘
" 主事	泉 喜子

6. 本書の執筆・編集は、調査担当者仲川靖が行った。
7. 出土遺物や写真・図面については滋賀県教育委員会で保管している。

## 目 次

序

例 言

1.はじめに .....	1
2.調査の結果 .....	2
3.出土遺物 .....	5
4.まとめ .....	6

## 図 版 目 次

図版一 石田遺跡	1.作業状況	2.トレンチ北側試掘状況
図版二 石田遺跡	3.トレンチ東側検出状況 (北から)	4.トレンチ東側検出状況 (南から)
図版三 石田遺跡	5.トレンチ西側全景 (北から)	6.トレンチ西側全景 (南から)
図版四 石田遺跡	7.トレンチ西側 方形周溝墓群	8.SDX 01・03・04 (東から)
図版五 石田遺跡	9.SDX 02(北から)	10.SDX 02土器出土状況
図版六 石田遺跡	11.SDX 04土器出土状況	12.SDX 04土器出土状況
図版七 石田遺跡	13.SDX 01南東隅 コーナー土層堆積状況	14.SDX 01・02a-b間 土層堆積状況
図版八 石田遺跡	15.SDX 02g-h間 土層堆積状況	16.SDX 02i-j間 土層堆積状況
図版九 石田遺跡	17.SDX 04 南辺西土層堆積状況	18.SDX 03・04q-r間 土層堆積状況

## 挿 図 目 次

第1図	石田遺跡位置図	1
第2図	遺構全体図	3
第3図	SDX 01～04 遺構平面図・土層観察図	4
第4図	SDX 02 土器出土状況図	7
第5図	SDX 04 土器出土状況図	7
第6図	石田遺跡出土遺物	8
第7図	石田遺跡出土遺物	9

## 1. はじめに

本報告は、昭和60年度県営住宅開発事業（石田県営住宅新築工事）に伴う守山市石田遺跡の発掘調査にかかるものである。

石田遺跡は、守山市石田町に所在し、本調査地点は、守山市立守山中学校の北側に位置する。周辺には、古墳時代から鎌倉時代にかけての遺構が検出されている播磨田東遺跡、赤野井遺跡、あるいは、弥生時代後期から古墳時代にかけての大方形周溝墓群が検出されている吉身西遺跡があり、当遺跡は、これらの遺跡のほぼ中間にある。

（第1図）

調査は、滋賀県教育委員会が同土木部から依頼と経費（4.040,000円）の再配当をうけ財団法人滋賀県文化財保護協会が昭和60年4月9日より5月20日にわたり調査をした。

発掘調査にかかる体制は次のとおりである。

調査主体 滋賀県教育委員会

調査機関 財団法人滋賀県文化財保護協会

調査指導 滋賀県教育委員会事務局文化財保護課 技師葛野泰樹

財団法人滋賀県文化財保護協会埋蔵文化財課調査三係 係長大橋信弥

調査担当 同上 技師 宮崎幹也

同上 技師 仲川 靖

調査にあたっては、守山市教育委員会、守山市埋蔵文化財センターをはじめ、滋賀



第1図 石田遺跡位置図

県土木部住宅課の方々に多くの協力を仰いだ。

なお、本報告の執筆・編集には仲川があたった。

本文中に使用した遺構の略記号 S D X は、方形周溝墓をあらわす。

## 2. 調査の結果

### 1 基本土層

本調査区の基本土層は、第1層耕土、第二層黄褐色粘質土（床土）で、遺構面のベースは、黄灰色粘性砂質土である。

遺構面は、表土面下20～25cmの比較的浅い地点で検出される。又、現在の水田を画する畔の下では、水田面と同位の高さで、遺構面遺構が検出されることより、後世において、かなりの削平を受けていることも判明した。

遺構の埋土は、平安時代以降のpitは暗灰色粘質土で、方形周溝墓内は、3～5層の堆積をみる。

### 2 検出遺構

トレチの東部は、南側で4～5基の柱穴を検出した以外は、遺構は存在しなかった。

遺構が主に密集していたのは、トレチ北西部で、ここでは、平安時代以降の柱穴15基と弥生時代中期末の方形周溝墓4基である。方形周溝墓の周溝は、いずれも溝を共有しており、各辺々に土層観察用の畔を残し、分層切合状況により各周溝墓の築造順を確認した。以下築造順に記す。

#### S D X 0 1 (第3図)

東西14.0m、南北11.5mで溝幅60～150cm、深さ30～40cmを測る。東辺以外の各辺を検出した。主体部は削平されて遺存しない。南東隅コーナー部付近の周溝底より、弥生時代中期末の壺を一個体検出した。

#### S D X 0 2 (第3図)

東西20.0m、南北15.0mの東西方向に長い長方形をした方形周溝墓で、溝幅は70～370cmと各コーナー部が細まり、中央部で大きく張り出す弓形を成している。溝の深さは18～38cmである。南東隅コーナー部で高もしくは器台の脚部と鉢を1個体ずつ検出した（第4図）。又、北辺は、S D X 0 1の南辺を切って作られており共有している。北東隅に陸橋部を有する。

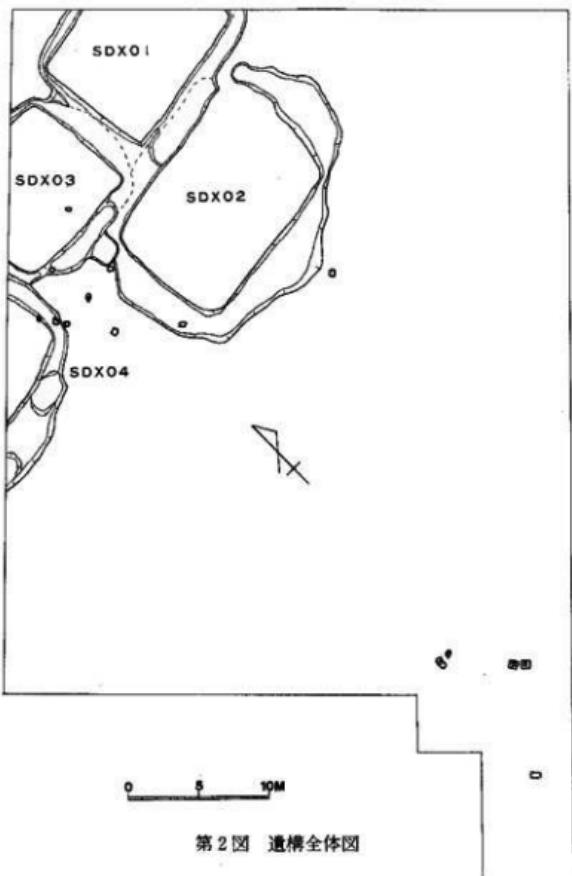
#### S D X 0 3 (第3図)

東西 13.0m、南北 11.5m で、南辺中央に東西 2m、南北 2m の張り出し状の落ち込み部を有し、全体は柄鏡状を成す。溝幅は 70~150cm、深さ 20~40cm、張り出し部は 20cm を測る。北辺中央底で、弥生時代中期末の壺が 1 個体検出された。又、東辺は SDX01 の西辺を切り、南辺は、SDX02 の北辺を切って作られており溝を共有している。

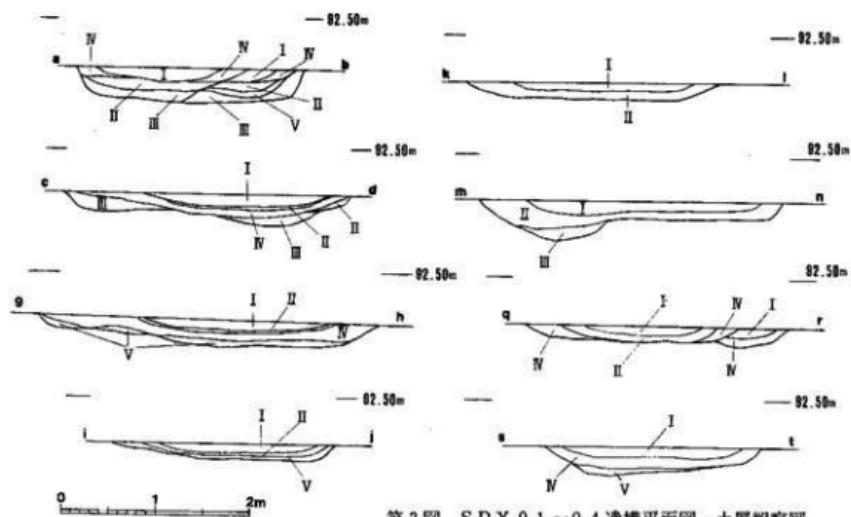
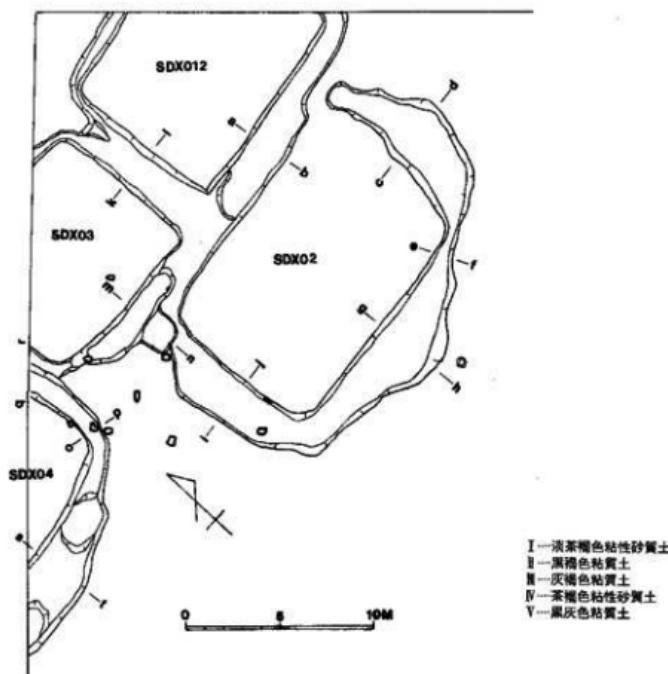
#### SDX04 (第 3 図)

東辺と南辺の一部を検出した。溝幅は、南辺中央部で 3.5m、他は 1.0~1.5m、深さは 20~30cm を測る。東南隅コーナー近くで弥生時代中期末の壺 1 個体を検出した。

(第 5 図) 又、東辺は、SDX03 の西辺を切り共有している。



第 2 図 遺構全体図



第3図 SDX01～04 造構平面図・土層観察図

### 3. 出土遺物

各周溝墓の溝底、埋土中より若干の遺物が出土している。ただし、埋土が、粘質土のため土器の遺存は悪く、元形に復元できるものはなかった。

#### SDX 01

南東隅の底に遺存しており、口径15.0cm、器高34.0cmを測る壺で、卵形の胴部を呈する。頸部で大きく外反したあと口縁部で屈曲し、外面に面をとる受け口状口縁である。調整は、頸部外面に櫛ガキ列点文を施す他は、縦方向、斜方向のハケ目調整である。内面は、口縁部が横方向のハケ調整で、あとは、指正痕が成されている。体部外面に一部朱を施した痕跡がある（第6図-1）。2は、弥生中期後半の近江型壺で、やや外反したあと口縁部外面に面をとり受け口状になるものである。口縁部外面横方向のハケ調整、内面も同じ、頸部外面縦方向のハケ調整である。1.2とも焼成、胎土良、色調は淡灰茶色を呈す。

#### SDX 02

南東隅コーナー部で2点検出した。3は、口径21.5cmの鉢と思われ、体部は外上方へ伸びたあと、口縁部で大きく内弯し、口縁部は内傾きみにつく。外面の調整は不明、内面に若干ハケ調整が残る。4は、器台もしくは高壺の脚部で、ハの字状に広がる。頸部より外反し、外上方へ伸びる。脚部接地面で、端部が屈曲し肥厚させる。調整は、外面が縦方向のハケ調整、内面は横方向のハケ調整で、頸部内面にしづらこみの跡が認められる。3、4ともに、焼成、胎土良好、色調は黄灰茶色を呈す。

#### SDX 03

8は、東辺中央部底、5、6、7は、埋土中である。5は、壺もしくは壺の底部で、平底を成し、赤褐色を呈する。6は、高壺で、ハの字状に開く脚部で端部を外上方へつまみ上げ肥厚さす。7は、口径16.5cmの壺の口縁部で、大きく外上方へ外反したあと端部でややつまみ上げ、外面に面をとり、下垂させる。8は、壺の口縁で、口径17.5cmを測り、大きく外反したあと端部は水平に伸びる。いずれも焼成、胎土良好であるが、調整は磨滅していて不明。いずれも赤褐色を呈する。

#### SDX 04

南辺中央部、南東隅コーナー部より出土しており、9は、口径17.0cm、器高30.0cmを測る壺で、胴部はやや丸味を帯びる。頸部より外反したあと外上方へ伸び、端部にて屈曲させ、外面に面を成し、受け口状を呈す。頸部から肩部にかけて3～5条の平

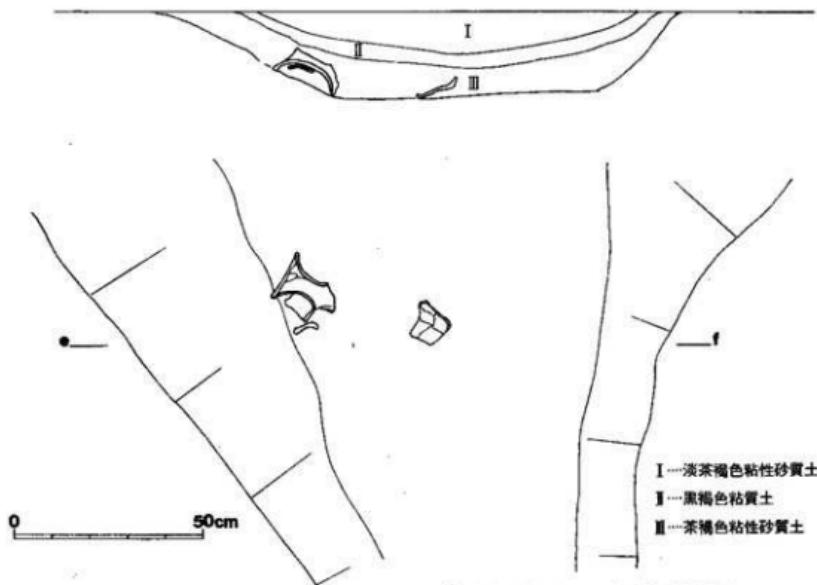
行沈線文を施す。調整は、外面が、縦方向および左上から右下へのハケ目調整である。焼成は良、胎土は、やや砂粒が多い。色調は灰茶色を呈す。10は、口径8.5cm、器高16.2cmの胴部下に最大径を有する壺で、頸部が外上方へ外反し、口縁端部で屈曲させ、外面に面をとる。頸部から胴部下にかけて4～6条の平行沈線文を6～7本施し、3本めと4本め5本めの間に縦方向の沈線文を施す。内面は指圧痕、色調は淡黃白色を呈す。11は、口径19cmを測る鉢で、体部は内彎したあと、口縁端部にて突帯状に肥厚させる。端部外面下に5～6条の波状沈線文を施し、その下は平行沈線文を施す。色調は灰茶褐色を呈す。

出土遺物の多くは、弥生時代中期末に位置づけられると思われ、畿内第Ⅳ様式に併行する土器とみられる。の中でも、SDX04より出土した壺10は、東海の外土居式とみられる。12は、黒色土器で、トレンチ東部遺構面上で出土した。13C前半頃の物とみられる

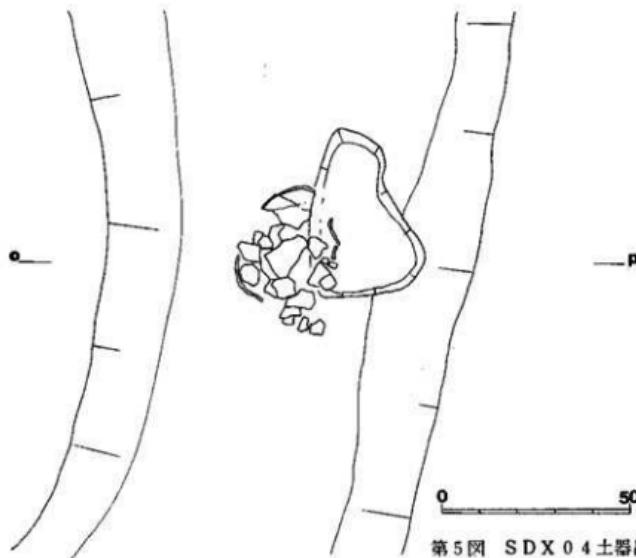
#### 4. まとめ

石田遺跡は、当初、古墳時代から鎌倉時代の遺物の散布をみたため、この時期の集落跡が予想されていたが、調査の結果、遺構面がかなり削平されており、平安時代以降の柱穴を検出したにもかかわらず、建物跡等にはならず、その性格は不明であった。そして、調査地の北隅で検出した4基の方形周溝墓は、さらに北側に広がるものとみられ、石田遺跡にある方形周溝墓群の南限にあたるものと思われる。又、当遺跡の南約1kmの地点には、弥生時代後期から古墳時代初期にかけての方形周溝墓群が検出された吉身西遺跡があり、これらの方形周溝墓群との関連性が、今後の課題となる。現時点では、石田遺跡の南に遺構の広がりがみられないことより、石田遺跡の方形周溝墓群は独立したものと考えられる。さらに、これまでの調査では、多数の方形周溝墓に合うだけの堅穴住居、掘立柱建物といった集落跡が検出されていないことも含めて、集落と墓域の関連性、立地状況等が問題となろう。又、SDX03にみられるような、周溝の一部に、突出した落ち込み状の張り出し溝を有する周溝墓が、これまでにあまり例をみないため、今後同様の形態をもつ遺構の出現を期待する。今の段階では、張り出し部の意味するものは不明であるが、方形周溝墓から、前方後円墳、前方後方墳等の移行を考える意味で留意すべき点ではないかと思う。今後の周辺調査に期待されるところである。

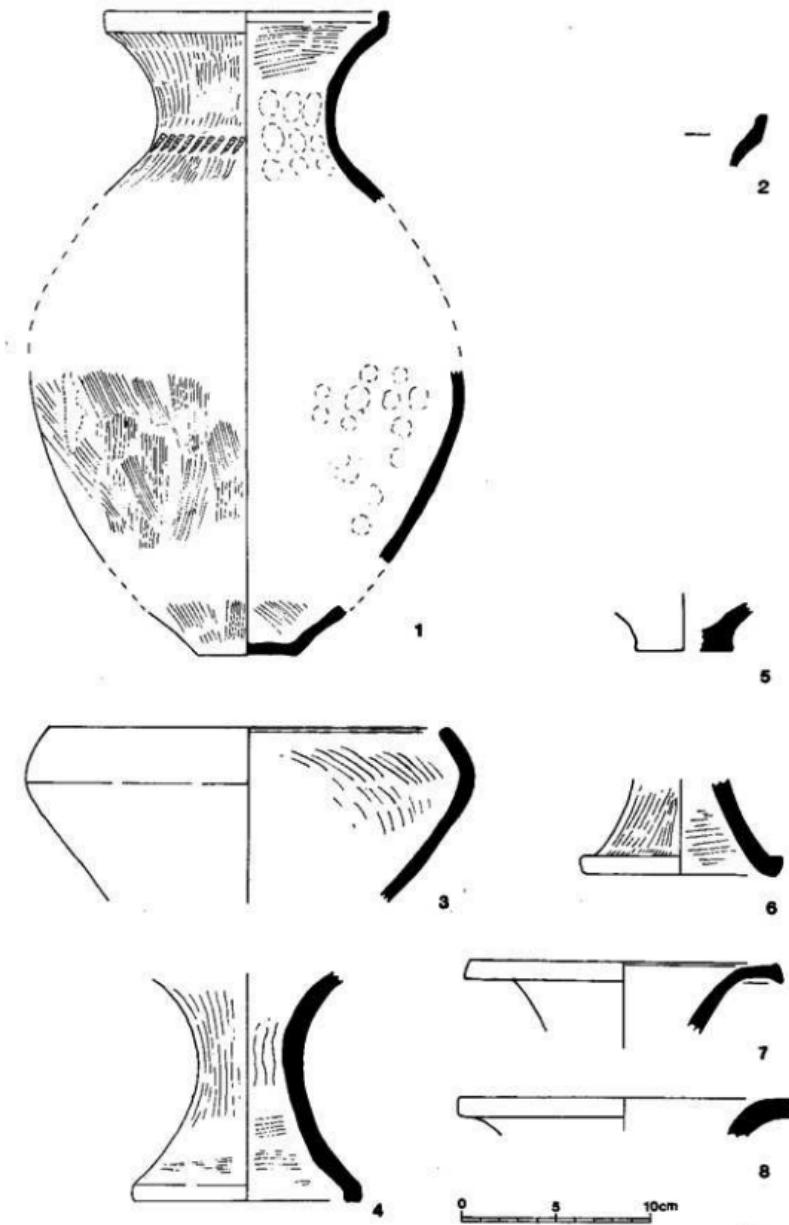
(仲川 靖)



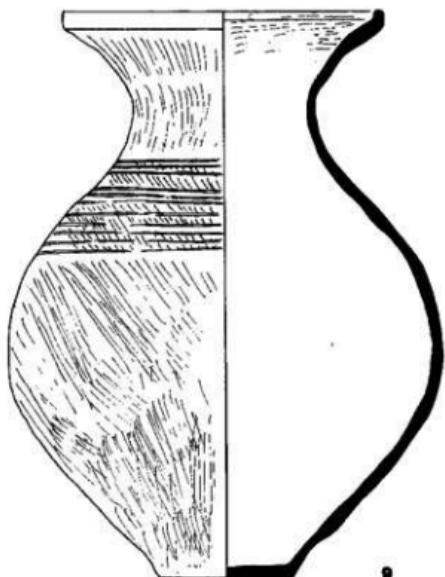
第4図 SDX 02 土器出土状況図



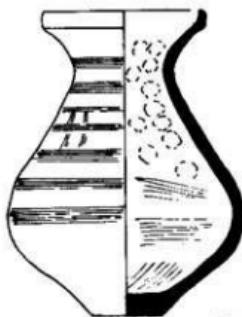
第5図 SDX 04 土器出土状況図



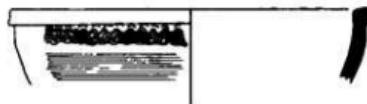
第6図 石田遺跡出土遺物



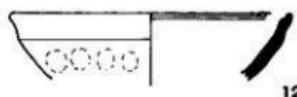
9



10



11



12



第7図 石田遺跡出土遺物



1. 作業状況



2. トレンチ北側試掘状況



3. トレンチ東側検出状況（北から）



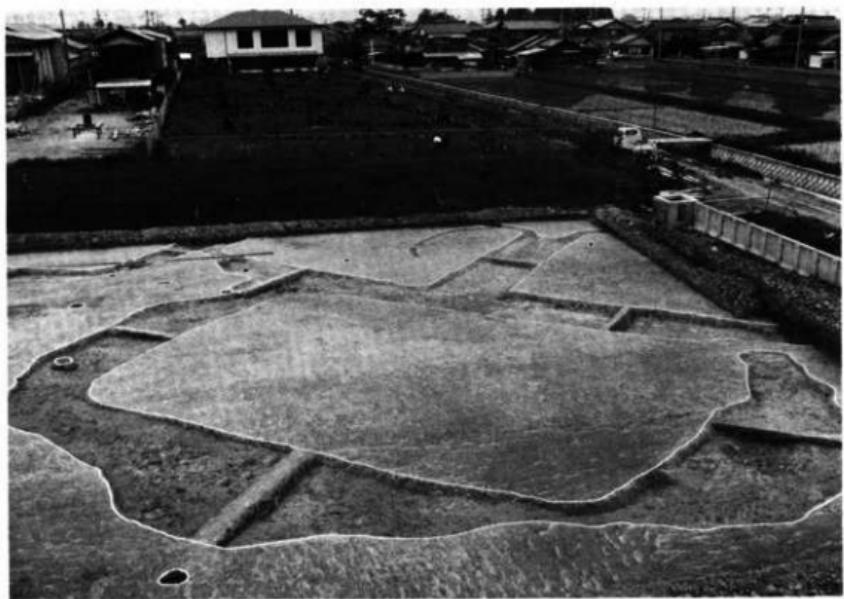
4. トレンチ東側検出状況（南から）



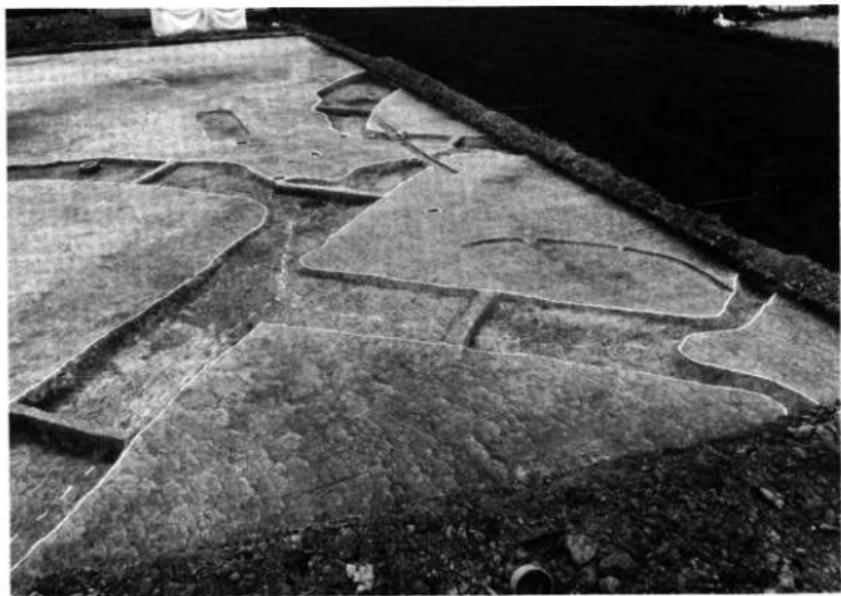
5. トレンチ西側全景（北から）



6. トレンチ西側全景（南から）



7. トレンチ西側方形周溝墓群



8. SDX 01・03・04 (東から)



9. SDX 02 (北から)



10. SDX 02 土器出土状況



11. SDX 04 土器出土狀況



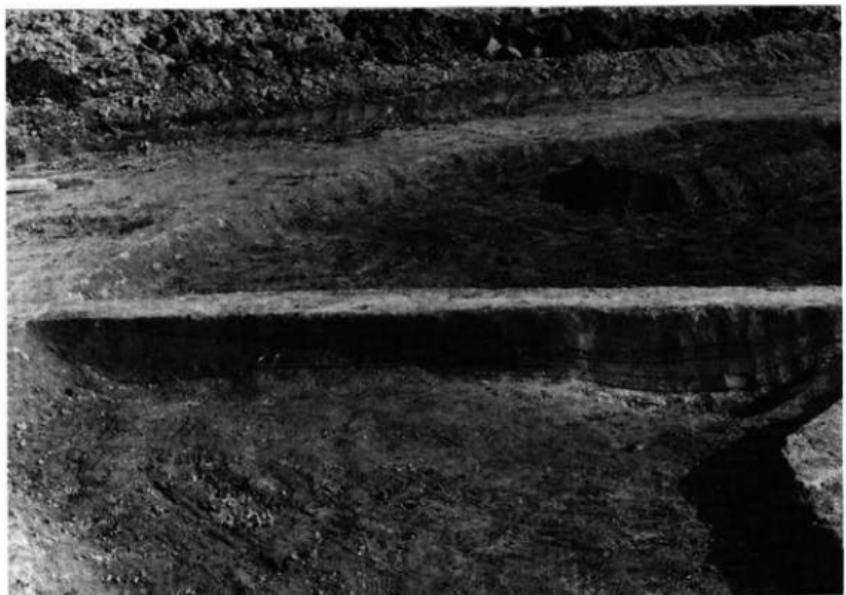
12. SDX 04 土器出土狀況



13. SDX 01 南東隅コーナー土層堆積状況



14. SDX 01・02 a - b 間土層堆積状況



15. SDX 02 g - h 間土層堆積狀況



16. SDX 02 i - j 間土層堆積狀況



17. SDX 04 南辺西土層堆積狀況



18. SDX 03・04 q-r 間土層堆積狀況

刊行年月 昭和61年3月

刊行物名 石田遺跡発掘調査報告書

編集・発行 滋賀県教育委員会文化部文化財  
保護課

大津市京町四丁目1-1

電話 0775-24-1121

内線 2536

附 滋賀県文化財保護協会

大津市瀬田南大萱町1732-2

電話 0775-48-9781

印刷所 富士出版印刷株式会社

大津市札の辻4-20

電話 0775-23-2580